

## 第2期

臼杵市まち・ひと・しごと

### 創生総合戦略

めざすべき将来のうすき

自然、歴史・文化とともに育んできた

「日本の心が息づくまち臼杵」

～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来へつなぐ～

100年後も持続可能なまちをめざして

令和2年3月

臼杵市

## 目 次

### 第2期臼杵市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1	基本的な考え方.....	1
1	背景・趣旨.....	1
2	総合戦略の位置づけ.....	1
3	第1期総合戦略の検証と成果.....	2
4	計画期間.....	6
5	計画人口.....	6
6	国・大分県の総合戦略の基本的な考え方 .....	7
7	理念 ～ 総合戦略の基本的な考え方 ～ .....	8
8	重点戦略.....	10
第2	重点プロジェクト.....	12
1	重点プロジェクト.....	12
	（Ⅰ）地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする.....	12
	（Ⅱ）地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる.....	14
	（Ⅲ）若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる.....	16
	（Ⅳ）ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる... ..	18
2	PDCA サイクル.....	21
資料		
1	第2期臼杵市まち・ひと・しごと創生総合戦略（全体像）.....	22
2	総合戦略とSDGsの関係.....	23

## 第2期臼杵市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 第1 基本的な考え方

#### ■ 1 背景・趣旨

急速な少子高齢化に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持するために、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号、以下「創生法」という。）が制定された。

同法第4条では、地方公共団体が実施すべき施策として、その地方公共団体の区域の実情に応じた自主的な施策を策定し、実施する責務を有すると規定されている。

また、同法第10条では、市町村は、まち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じた施策についての基本的な計画を定めるよう努めなければならないと規定している。さらに、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019について」（平成30年6月15日閣議決定）において、令和2年度以降の次期「総合戦略」の策定に取り組むとされている。

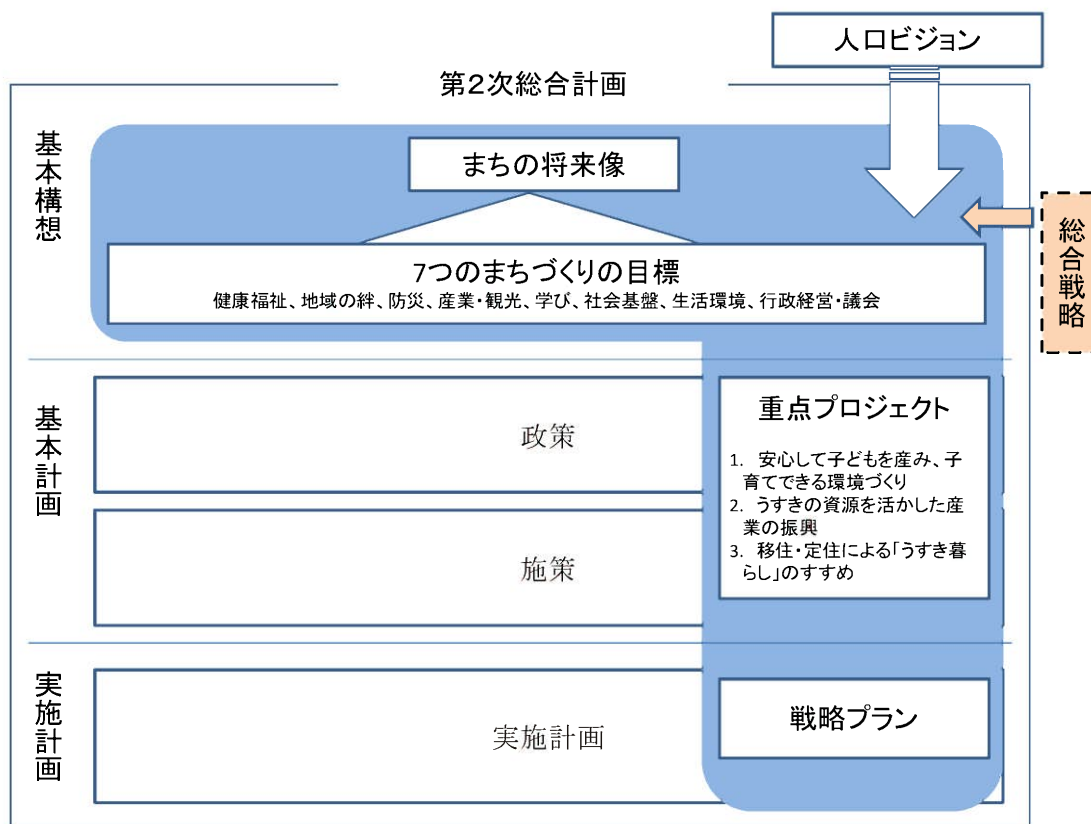
本市においても、2015（平成27）年10月に策定した臼杵市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第1期総合戦略」という。）の計画期間が令和元年度をもって満了を迎えることに伴い、変わる時代の中で、人口減少問題は待ったなしの喫緊の課題であることを踏まえ、第2期臼杵市まち・ひと・しごと総合戦略（以下「第2期総合戦略」という。）を策定する。

第2期総合戦略の策定にあたり、国・県の人口ビジョン及び総合戦略では、ともに現行の枠組みを維持しながら必要に応じた施策の拡充を図っていることから、本市においても、第1期総合戦略の枠組みを継承しつつ、その進捗状況や上位計画である第2次臼杵市総合計画を勘案し、新たな課題や社会情勢の変化に的確に対応できるよう施策の内容などを見直し、切れ目のないよう策定を行うものとする。

#### ■ 2 総合戦略の位置づけ

2015（平成27）年度を始期とする第2次総合計画の基本構想、基本計画の一部、戦略プランを総合戦略と位置づける。総合計画でまとめた臼杵市がめざすべき方向について、特に、人口減少・少子高齢化に対応する取組みを具体化し、着実な実施につなげていくためのものである。

## 【総合計画と総合戦略の関係】



## 【第1期総合戦略との関係】

第1期総合戦略は、人口減少の克服・地方創生を目的とし、2015（平成27）年度～2019（令和元）年度まで取り組みを行った。しかしながら、依然として深刻化する人口減少や地方創生への取り組みは、第1期で根付いた地方創生の意識や取り組みを継続して行なう必要があるため、第2期総合戦略は第1期総合戦略の進捗状況及び国・県が策定した「第2期総合戦略」と整合性を図り策定した。

### ■ 3 第1期総合戦略の検証と成果

第1期総合戦略では、人口減少・少子高齢化時代に立ち向かい、本市が未来に向けて躍進するための大きな課題は、地域の活力を創生していくことであると認識し、4つの柱を位置付け、重要業績評価指標（KPI）を設定する中で、その課題解決に向けた施策に取り組みを行った。

第2期総合戦略を策定するに当たり、これまでの各種施策の進捗状況や今後の課題について、重点プロジェクトごとに次のとおりとする。

【目標値】	2040（令和 21）年度	31,600人
【実績】	2018（平成 30）年度	36,848人（前年▲559人）
	2017（平成 29）年度	37,407人（前年▲586人）
	2016（平成 28）年度	37,993人（前年▲516人）
	2015（平成 27）年度	38,509人（前年▲490人）
	2014（平成 26）年度	38,999人（前年▲555人）

（Ⅰ）地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

指標名	基準値（2014）	目標値（2018）	実績値（2018）
若者の安定した雇用の創出数	60人／年	240人（累計）	164人（累計）
企業立地促進条例による新規進出企業数	1件／年	4件（累計）	4件（累計）

1つ目の柱『しごと』『地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする』では、5年間で300人の雇用創出をめざすため、年間60人を目標としていた。

企業立地促進条例や空き店舗活用、新規就農、新規林業従事、新規漁業従事及び創業支援事業など市の取り組みによる雇用については、初年度の平成27年度は11人であったもののその後は40～50人程度の雇用を創出している。

移住者の市内就職者の数については、新規就農や創業による者等と重複する人もいると思われるため積算に入れていないが、就職者の半数が該当する（重複していない）ものと見込んだ場合、目標数には概ね達している状況である。

本市が進めている移住施策と併せて、効果が表れている。

（Ⅱ）地方への新しいひとの流れをつくる

指標名	基準値（2014）	目標値（2018）	実績値（2018）
市外から臼杵市への転入移住者数	40人／年	40人／年 160人（累計）	220人 861人（累計）
臼杵市から大分市への転入・転出均衡	▲200人	▲20人	▲90人
観光客数（有料施設来館者数）	137,722人	129,420人	145,986人

外国人観光客数（臼杵石仏でのカウント）	1,547 人	5,000 人	4,334 人
---------------------	---------	---------	---------

2つ目の柱『ひと（移住・観光）』『地方への新しいひとの流れをつくる』では、移住・定住施策の成果は出ており、特に30代、40代の世帯主が家族で移住する例が多く見受けられる。

社会増減は、大分市との間で転出超過となっている状況を均衡にすることもめざしている。2014（平成26）年度は200人程度の転出超過であったが、2018（平成30）年度では90人の転出超過となっており、依然多いものの成果は表れている。

観光客数及び外国人観光客数は、2016（平成28）年度には熊本・大分地震、2017（平成29）年度は台風18号による影響により大幅減となったため目標を下方修正したものの、うすきプロジェクトの推進やラグビーワールドカップ効果により、目標値を上回る結果となっている。

### （Ⅲ）若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

指標名	基準値(2014)	目標値(2018)	実績値(2018)
地域における子育ての環境や支援への満足度が高いと考える人の割合	30%	50%以上	47.7%
40歳代前半既婚女性の平均子ども数	2.02人	2.24人	1.94人
30～34歳未婚率引下げ	男性 54.99%	男性 44%	調査なし
	女性 37.94%	女性 34%	調査なし
学力テスト偏差値で50を超えた学校の割合	小学校 8校 中学校 2校	小学校 13校 中学校 5校	小学校 6校 中学校 2校

3つめの柱『ひと（子育て）』『若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる』では、

本市の子育て施策は充実しており、独自の取り組みとして医療費自己負担軽減や保育料の値下げ、安心安全な給食など、市内外にPRすることにより、子育てしやすい臼杵市の認知が広がり、「大分県人口推計年報による5歳階級別転入・転出者数（2017.10.1～2018.9.30）」で5歳未満の転入超過人数が、58人と県内で1位（2位は+18人）となるなど、一定の効果があがっていると思われる。

る。

しかしながら、出生数は年々減少傾向にあるため、出生数を増やすことと併せ、子育て世代の移住者をターゲットとした施策や学力向上をめざした教育施策の展開が求められる。子どもを安心して育てやすい環境の整備が今以上に必要である。

(IV) 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

指標名	基準値 (2014)	目標値 (2018)	実績値 (2018)
地域主体の活動回数	180 回	200 回	282 回
介護保険要介護認定率	18.58%	16.99%	17.85%
認知症サポーターの数	4,570 人	10,000 人	7,246 人
健康寿命 (お達者寿命) の引上げ	男性 77.89 歳	男性 78.53 歳	男性 79.05 歳
	女性 83.27 歳	女性 82.45 歳	女性 83.23 歳
臼杵市の満足度評価	68.6 点	70.0 点	71.0 点
大学や企業との連携に関わった事業数	3 回	3 回	4 回
県外との交流事業数	10 回	10 回	22 回

4つめの柱『まちづくり』「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」では、7つの目標を掲げている。

地域の絆づくりの地域主体の活動回数では、地域振興協議会の活発な活動により、目標を大幅に達成した。

介護保険要介護認定率 (2019 年度 2%改善) としていた指標は、高齢者数の増加が見込まれるなか、要介護認定率を抑えることが困難となっている。また認知症サポーター数も目標に届かなかつたため、今後も広報啓発活動を強化する必要がある。

健康寿命 (お達者寿命) は、毎年、男性・女性共に順調な伸びがみられ、早めの検診・受診などの保健指導や医療連携並びに、高齢者サロン活動など地域

を巻き込んだ活動が効果を生んでいると思われる。

市民アンケートによる満足度調査では、2016（平成28）年度以降の実績が70点を超えており、目標を達成することができている。今後も満足度向上に努めていきたいと考えている。

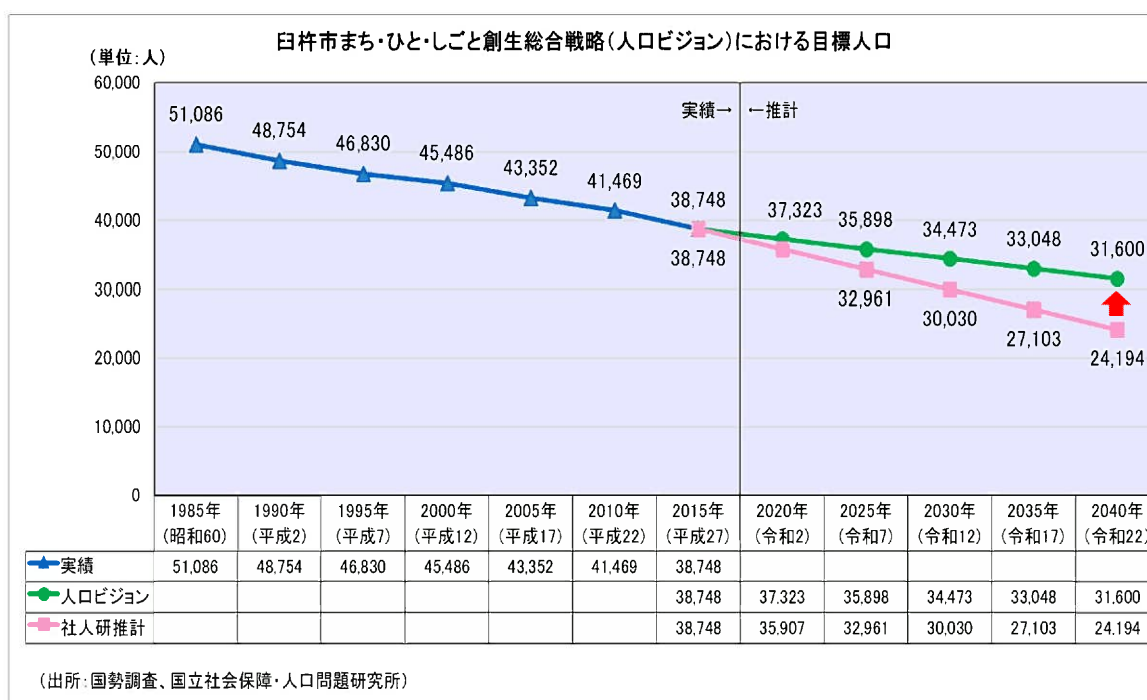
地域や企業と等との連携については、交流事業、関係人口につながる事業でもあるため、今後も継続した取り組みが必要である。

## ■ 4 計画期間

2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの5年間とする。

## ■ 5 計画人口

人口ビジョンにおける人口の将来展望を踏まえ、計画期間内での取組成果を見込み35,898人とする。





## ■ 6 国・大分県の総合戦略の基本的な考え方

### 【国の総合戦略】

国の総合戦略においては、人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、4つの基本目標に向けた取組を実施するにあたり、新たな視点に重点を置いた施策を掲げている。

#### 1 国の総合戦略の基本的な考え方

##### (1) 人口減少と地域経済縮小の克服

- ・「東京一極集中」を是正する
- ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する
- ・地域の特性に即して地域課題を解決する

##### (2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

- ・地域経済の活性化、産業の高付加価値等による「しごとの創生」
- ・地方就労の促進や移住定住促進等による「ひとの創生」
- ・安心できる暮らしの確保や都市のコンパクト化、広域連携等による「まちの創生」

#### 2 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

- (1) 自立性
- (2) 将来性
- (3) 地域性
- (4) 直接性
- (5) 結果重視

#### 3 4つの基本目標と地方創生版・三本の矢

<基本目標1> 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

<基本目標2> 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

<基本目標3> 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

<基本目標4> ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

<横断的な目標>

- 多様な人材の活躍を推進する
- 新しい時代の流れを力にする

<地方創生版・三本の矢>

- 情報支援・人材支援・財政支援

### 【大分県の総合戦略】

少子高齢化、人口減少社会に対応するため、子どもを生き育てやすい環境づくりなどを通じた自然増と、仕事づくりや快適な暮らしの環境づくり、UIJターンなどを通じた社会増の両面から進めていく。

生産年齢人口の減少や過疎化、小規模集落の増加等が進むことから、高齢者や女性など多様な人材の社会参加を一層促すとともに、集落機能の維持・強化や、特徴ある地域資源による地域活性化を図る。

このような観点から、3つの基本目標を設定とする。

- I 人を大事にし、人を育てる
- II 仕事をつくり、仕事を呼ぶ
- III 基盤を整え、地域を活性化する

### ■ 7 理念 ～ 総合戦略の基本的な考え方 ～

第2期総合戦略における基本的な考え方は、第1期総合戦略に引き続き、以下のとおりとする。

「日本の心が息づくまち臼杵」  
～「おだやかさ」と「たくましき」を未来へつなぐ～  
100年後も持続可能なまちをめざして

- ◎ 今後めざすべき、臼杵市の将来の方向は、数百年にわたり築き上げてきた臼杵の歴史や文化を後代にも引き継ぎ、日本中、そして、世界中に対して、「日本の心」を発信できる臼杵のまちづくりを着実に進める。
- ◎ 一粒の真珠のように、小さくてもキラリと輝く臼杵のまちを創りあげることで世界に誇れる日本社会の活力につながる。

### 【めざすべき将来の方向性】

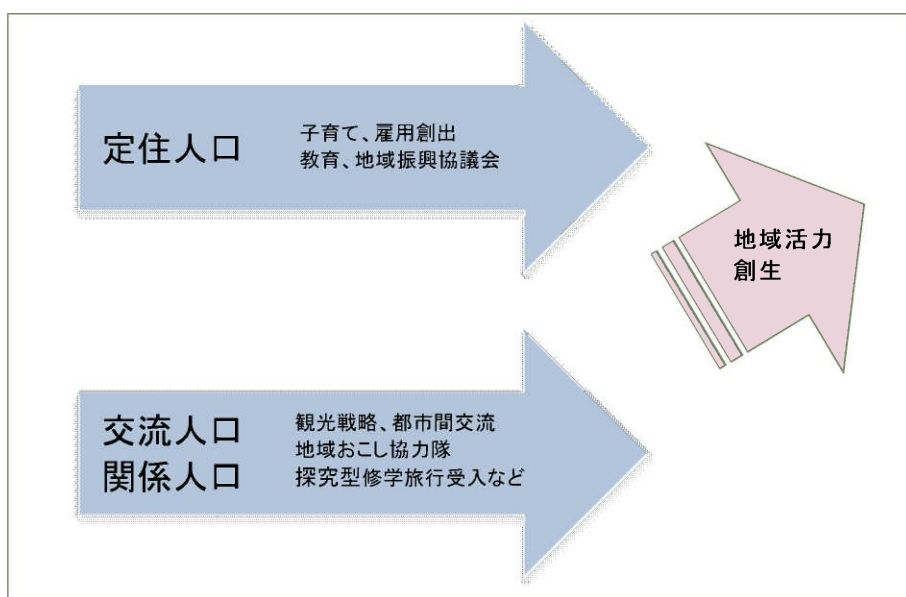
本市では2012（平成24）年以降、年間約500人規模の人口減の傾向が続いており、2020（令和元）年1月末現在36,470人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によれば、2040（令和22）年には24,194人となると推計されている。

人口減少の原因は、都市部への人口流出（社会減）に加えて、出生数の減少と高齢化による死亡数の増加により自然減少が加速化してきたことが考えられ

る（2018年度▲370人）。また、社会動態については、特に20代で大幅な転出超過となっている。

本市では、この先、高齢化が進んでも誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるようにという観点で、地域コミュニティの推進など地域づくりに取り組んできた。しかしながら、人口減少の進行により、若者世代の減少や、地区そのものの人口の減少が進行し、地区の活動が成り立たなくなってくるという課題に直面している。進学・就職等により一定の転出はやむを得ないため、将来の転出抑制を図るため郷土愛の醸成を図る取組、UIJターンによる移住を推進する仕組みや環境の整備にも合わせて取り組むこととする。また、本市における人口減少・少子高齢化や地域づくりの担い手不足など様々な地域課題を抱える地域において、移住でもなく観光でもなく特定の地域と多様な形で関わり、地域課題の解決に資する「関係人口」の創出・拡大を図ることが必要となっている。

そこで、持続可能な地域づくりのため、また活力あるまちをめざし、地域と継続的なつながりを持つ機会やきっかけの提供となる仕組みづくりに取り組んで行く。



## ■ 8 重点戦略

この総合戦略で推進する重点戦略は、国の総合戦略に則って、4つの柱を設ける。

- (Ⅰ) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- (Ⅱ) 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
- (Ⅲ) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- (Ⅳ) ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

人口減少・超高齢時代に立ち向かい、地域の活力を創生していくことが、本市が未来に向けて躍進するために取り組まなければならない大きな課題であると認識し、4つの重点戦略を施策の柱として位置付け、重要業績評価指標（KPI）を設定する中で、その課題解決に向けた施策を展開していく。

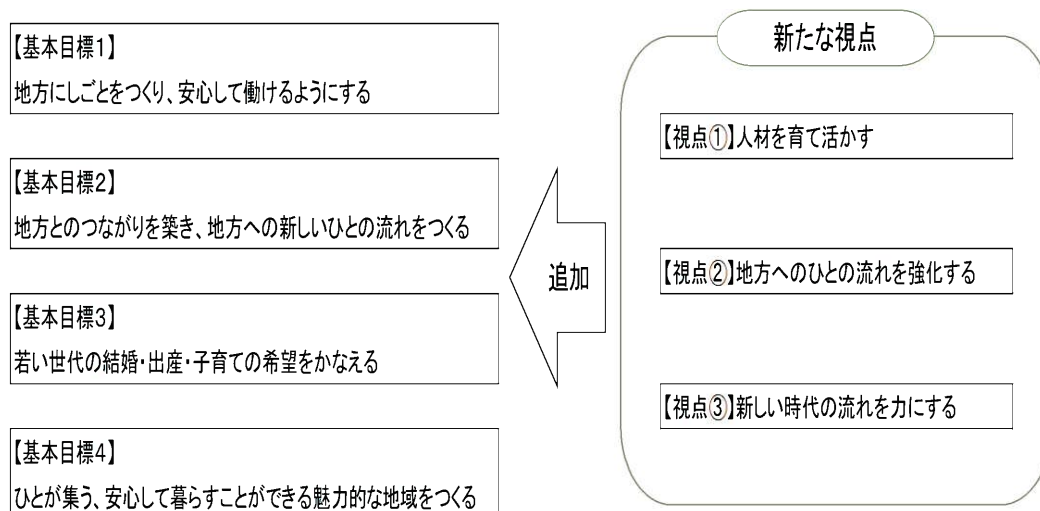
本市がかかえる地域課題に対してその特性に応じ、未来技術を有効に活用することで、課題の対処にとどまらずサービスの生産性や利便性の向上が図られることを期待し、人工知能（AI）やIoT等の先端技術を活用する等 Society5.0 の視点を取り入れ、超スマート社会の実現に向けて推進していく。

さらに、持続可能な開発目標（SDGs）の理念（「誰一人取り残さない」社会の実現）を取り込み、「人口減少」と「地方創生」に向き合うため、重点プロジェクトを推進していく。

重点プロジェクトは、重点戦略の4つの柱に対して、2～3の施策に分類した上で、それぞれのプロジェクトを掲げており、それぞれの施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を定める。

さらに、そのプロジェクトは、各項目について事業のレベルまで定めており、事業ごとのKPIを主担当課及び関係課の責任において設定し、実現のために着実に事業を推進していくこととしている。

## 【本市における 4 つの基本目標】



### ◆ 人材を育て活かす

中長期を見据えて「ひと」に着目し、地方創生の基盤をなす人材の育成や活躍を図るための環境の整備を推進する。

### ◆ 地方へのひとの流れを強化する

人口減少・少子高齢化や地域づくりを支える担い手不足など様々な地域課題を抱える中、地域外であって、移住でもなく観光でもなく、特定の地域と継続的かつ多様な形で関わり、地域課題の解決に資する「関係人口」の創出・拡大に取り組むことで、臼杵市へのひとの流れを強化する。

### ◆ 新しい時代の流れを力にする

将来的に Society5.0 (※) の実現を視野に、ICT (情報通信技術) を活用し、まち・ひと・しごと創生の施策を横断的に結びつけ、施策を連携させ、地域課題の解決に取り組む。

## 第2 重点プロジェクト

### ■ 1 重点プロジェクト

#### (I) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

##### 【基本的方向】

まず、第一次産業については、従来から進めてきた有機農業推進の取組み、100年の森づくりなどを引き続き推進するとともに、農業、林業、水産業の一次産業の産品に付加価値をつけ、6次産業化を進めていく。

山の資源、海の資源に恵まれた臼杵市にとって、自然エネルギーの有効活用は循環型社会の創設と域内経済の活性化につなげていく。

創業100年を超える企業がたくさんあることも臼杵市の特長であり、従前からある産業をしっかりと支えるとともに、イノベーションの創出によって生産性を上げていく取組みも重要である。

行政との連携が築き上げられている医療・介護サービスなどで若い世代の雇用の場を確保し、女性や高齢者が活躍し、能力を十分に発揮する社会を創ることも重要である。

さらに、海外の市場、特に新興著しい新興国等と積極的につながっていくことは重要である。和食をはじめ日本の食文化の普及とともに、我が国の農林水産物や食品の輸出促進を進め、グローバルな「食市場」の獲得をめざすことが望まれている。

##### 【数値目標】

指標名	基準値(2018)	目標値(2024)
雇用の創出数	164人(累計)	350人(累計)
企業立地促進条例による新規進出企業数	4件(累計)	5件(累計)

##### 【具体的施策】

1. 臼杵の資源を活かしたほんまもん農業・漁業・林業・商業の振興、雇用の拡大

1) 「有機の里うすき」の実現プロジェクト

- ①有機農業推進事業
- ②就農者支援促進事業

- 2) 自然エネルギー資源を活用した循環型の臼杵づくり
    - ①水源涵養のための100年の森づくり（森林経営計画）内容拡大
    - ②臼杵市バイオマス産業都市構想の実現
  - 3) 豊後水道の恵み、ほんまもん漁業の振興
    - ①漁業振興支援事業
    - ②臼杵産ブランド化推進による漁家所得の向上
    - ③海洋科学校「かぼすぶり」災害時備蓄缶詰の全国PR
  - 4) 400年以上の歴史を育んできた商業のまちの再興
    - ①創業支援事業
    - ②空き店舗対策（シェアオフィス）事業
    - ③ふるさと納税制度の活用による顧客拡大
    - ④未来の臼杵を支える人材の確保及び情報発信
  - 5) 地場に力を注いできた100年企業と新規企業（産業）の相乗効果による経済活力
    - ①100年企業を中心とした地場企業事業拡大及び新規企業立地促進事業
    - ②小郡の森を活用した誘致活動の強化
    - ③企業立地促進事業
2. ふるさと「うすき」を全国に、そして世界に知ってもらうための戦略
- 1) 「うすき」にあるものを発信し、臼杵と人をつなぐ
    - ①臼杵から全国へ顧客確保戦略の展開
    - ②TV等のメディア活用
3. 臼杵ブランドの確立（6次産業化の推進）
- 1) 特産品の開発・販路拡大
    - ①臼杵ブランド開発支援事業
    - ②地場産品掘り起し販売事業 開発・加工・販売促進

**【新たな視点・強化ポイント】**

- （強化）野津東部工場団地企業誘致
- （強化）野津東部工業団地造成
- （新規）企業合同説明の開催
- （新規）空き店舗対策（シェアオフィス）

**【新たに設けた業績評価指標】**

- ・新規企業進出による雇用者数
- ・事業拡大による雇用者数
- ・新規創業による雇用者数

- ・空き店舗活用による雇用者数
- ・野津東部工場団地造成の進捗率

## (II) 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

### 【基本的方向】

特に若い世代を中心に、移住定住策により都市部からの流入を増やすことに加え、隣接する大分市に流出している若者世代が、臼杵に住みたいと思えるような環境を整えていく。また、移住者の生活の糧を得るための就労の場を整える取組みを推進する。

さらに、地方創生の取組では、日本の魅力、そして、臼杵の魅力を活かした観光分野も大きな飛躍のチャンスとなる。幸い臼杵市には、地域資源が宝の山のように眠っている。臼杵市の潜在力をもっと引き出すためには、臼杵市だけで閉じるのではなく、外に向かって地域を開き、外部の良さを取り込み、外部と積極的につながっていくことが重要である。古くからある日本の歴史・文化を海外の人にも知ってもらうための観光戦略も展開する。

### 【数値目標】

指標名	基準値(2018)	目標値(2024)
市外から臼杵市への転入移住者数	220 人	270 人
臼杵市から大分市への転入・転出均衡	▲90 人	±0
観光客数（有料施設来館者数）	124,564 人	167,900 人
外国人観光客数（臼杵石仏でのカウント）	4,686 人	8,270 人

### 【具体的施策】

#### 1. ふるさと臼杵U I Jターンによる「うすき暮らし」の推進

##### 1) 移住・定住支援事業

- ①若年夫婦転入世帯補助事業
- ②子育て世帯転入者補助事業
- ③定住促進住宅取得補助事業
- ④Uターン促進事業
- ⑤3世代ファミリー定住促進事業
- ⑥若年単身者転入世帯の補助事業



- ⑦若年夫婦・子育て世帯定住促進住宅取得補助事業
- ⑧新婚世帯応援事業
- 2) ふるさと白杵U I J ターン推進及び関係人口創出  
(白杵に移住したくなるプロジェクト)
  - ①移住希望者への相談支援事業
  - ②移住者用住宅の斡旋
  - ③民間宅地開発事業補助
  - ④白杵に「住み」ながら「働く」ための環境づくり
  - ⑤白杵とつながって移住を促進するための関係人口創出
- 3) 高等学校・大学等における人材育成
  - ①高等学校・大学等における人材育成
  - ②白杵に戻り、地元で働く人材育成支援
- 2. 観光戦略推進による交流人口アップ
  - 1) 歴史・文化・自然環境など地域資源の魅力発信
    - ①白杵の特性を生かした情報発信事業
    - ②白杵石仏ほか観光資源のSNS発信
    - ③「食」を全面に出した映画の推進
    - ④「農泊」の魅力発信
  - 2) おもてなしの環境づくり
    - ①ほっとさん事業
    - ②「おもてなし観光」による観光客満足度アップ
    - ③外国人観光客も満足するおもてなし環境整備事業
    - ④観光客の滞在時間の延長

**【新たな視点・強化ポイント】**

- (新規) 関係人口創出
- (強化) 社会増減の均衡
- (新規) 企業版ふるさと納税制度の活用
- (強化) ふるさと納税
- (新規) 民間宅地開発事業補助制度

**【新たに設けた業績評価指標】**

- ・小規模集落・城下町地区への移住者数
- ・探究型修学旅行の受入
- ・ふるさと納税件数、レポート者数
- ・宿泊者数

### (Ⅲ) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### 【基本的方向】

臼杵市において、子どもを産み育てやすい環境を整え、子育て世代が希望する子ども数を産めるようにする。

臼杵市においては、未婚率が全国平均や大分県平均以上に高いといった実態があり、若い世代における結婚の希望の実現を図ることが重要となっている。若い世代の希望を実現するためには、結婚から妊娠・出産、そして子育て、さらには、子どもが巣立っていくところまでの支援を継続的に行っていくことが重要である。

周辺部の集落では子ども数が極めて少なくなっており、気軽に相談できる相手がいななど子育ての孤立が顕在している実態を踏まえ、相談体制の強化など臼杵市らしい子育て支援策が求められている。

育児休業などの取組みは進展しているが、特に男性の育児休業取得率が低いことが指摘されている。育児は、女性のみならず、男性の問題でもあり、育児・家事に男性も主体的に参画することが重要である。

長時間労働など「働き方」に関わる問題は、男女を問わず子育て世代に大きな影響を与えていることを十分認識し、官民挙げてその改善に取り組む必要がある。

教育環境については、小中一体教育の実践をはじめとして、一人ひとりの教育的ニーズに応じていくことに加え、読書のまちづくりを通じて心豊かな人材育成を推進するなど、臼杵市らしい取組を展開していく。

#### 【数値目標】

指標名	基準値(2018)	目標値(2024)
0歳～5歳児の数	1,321人	1,370人
この地域で子育てしたいと思う親の割合 (健診時の聞き取り満足度)	96.0%	97.0%
40歳代前半までの既婚女性の平均子ども数	1.94人	2.24人
30～34歳未婚率引下げ	男性 54.99%	男性 44%
	女性 37.94%	女性 34%

婚姻数	102 組	120 組
臼杵市学力定着状況調査（全教科）で偏差値 50 を超えた学校数	小学校 6 校 中学校 2 校	小学校 13 校 中学校 5 校

## 【具体的施策】

1. 安心して産み育てる「臼杵で子育て中」の充実
  - 1) 子育て満足度アッププラン
    - ①新婚・子育て世帯住宅支援事業
    - ②子ども子育て総合支援センター「ちあぽーと」の機能の強化
    - ③安心、安全な出産・子育てができる環境の整備
    - ④幼児教育、保育環境の充実
    - ⑤子ども教育応援事業
    - ⑥子どもの遊び場活用事業（子育て支援事業）
  - 2) 働くママ・パパ応援プラン
    - ①企業に向けた子育て応援事業
    - ②女性の社会復帰応援・推進事業
  - 3) 「臼杵産」安心安全でおいしい食材で育つ「健やか臼杵っこ」
    - ①地産地消の学校給食の推進
    - ②農業体験を通じた食と命を学ぶ「食育」の推進
    - ③市内の飲食店で地元食材の利用の促進
2. 夢と希望を叶える婚活の推進
  - 1) 婚活プロジェクト
    - ①婚活イベント事業
    - ②結婚支援員（イランショワさん）事業
3. 学校・家庭・地域で心のかよいあう交流を通して「生きる力」を身につける学びの推進
  - 1) 誠実にたくましく「生きる力」を身につけるための教育の実施
    - ①幼保小中一体教育の推進による学力向上・体力向上
    - ②内面を磨くための読書活動
    - ③郷土愛を醸成する体験学習の推進
  - 2) ふるさと臼杵に誇りと愛着・希望を持った「臼杵大好き臼杵っこ」を町全体で育てる教育の実践
    - ①ふるさと教育・響き合う教育・協力する教育による臼杵っこの育成
    - ②「山内流」の継承
    - ③ほんものの文化・歴史にふれ・学ぶ教育の推進

#### 【新たな視点・強化ポイント】

(新規) 5歳児未満の子どもの数

#### 【新たに設けた業績評価指標】

- ・この地域で子育てしたいと思う親の割合
- ・0～5歳児の数
- ・保育所等の就園率（3～5歳児）
- ・大分県出会いサポートセンター登録者数

### (IV) ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

#### 【基本的施策】

臼杵市にある自然環境や歴史・文化の活用、人と人のつながりを活かした地域づくりなど、臼杵市らしい取組みを広げていく。そして、高齢者ができる限り健康な状態を保ち、経済社会に参加することができる「健康寿命」を伸ばし、高齢期でもできる限り就労、または社会参加する「健康長寿社会」が到来すれば、高齢社会の事態は更に改善する。

地方都市ならではの距離的な不便さにおいても、ICTの活用等を通じ、若い人材が豊かな地域資源を活かして、新たなイノベーションを巻き起こすことができれば、課題も克服でき、活力ある臼杵市を創生していくができる。

これらの環境が整い、都市部の高齢者も地域での暮らしに馴染むことができるよう時間をかけて、地元住民との交流の場を設けることで、日本版CCRCの受け皿に十分になりうる地域性を持っている。さらに、地域振興協議会の取組において、誰もが居場所と役割を持つコミュニティづくりが進むことによって、移住者や関係人口、地元住民などを含めた全世代・全員を対象とした交流の場を提供することができる。

周辺部の集落で暮らす人にとっては車が必須であり、それが乗れなくなった高齢者にとっては、買い物や通院など大きな苦勞を強いられるため、公共交通等の整備の検討が求められている。

全体を通して、これらの取組みは、行政だけでなく、大学や企業等と連携し、さらに、国、大分県、そして、周辺市町村も同様の取組を進めることができるよう連携を図っていく必要がある。

特に、臼杵市はフェリーでの九州の東の玄関口となっており、対岸の愛媛県及び八幡浜市との連携も地域活性化の重要な鍵となる。

## 【数値目標】

指標名	基準値(2018)	目標値(2024)
元気高齢者の割合	80.9%	80.9%
地域主体の活動回数	282回	300回
認知症サポーターの数	7,246人	10,500人
健康寿命（お達者寿命）の引上げ	男性 79.05 歳	男性 80.45 歳
	女性 83.23 歳	女性 84.03 歳
臼杵よりよいまちづくり市民アンケート （満足度平均点）3点満点	1.56点	2.0点
大学や企業との連携に関わった事業数	5回	5回
県外との交流事業数	22回	20回

## 【具体的施策】

1. みんながつながり支えあう地域の絆づくり
  - 1) 地域内の交流・地域間の交流の促進
    - ①地域を支える”ひと”づくり
    - ②防災をキーワードとした自助・共助を支える組織づくり
    - ③いつでも顔が見える”小さな拠点”の整備と活動支援
    - ④地域の中で支え合える仕組みづくり
    - ⑤地域資源を活用した交流事業で元気な地域コミュニティづくり
  - 2) 医療 IT インフラを活用した医療保健介護サービスの充実
    - ①うすき石仏ねっとの拡充で効果的・効率的なサービス提供
    - ②認知症の早期発見・徘徊予防
  - 3) 「食」と「健康」を通じた生活習慣の改善
    - ①ライフステージに応じた「食」と「健康」の取り組み
    - ②幅広い視野をもった人材を育成する体験活動の実施
    - ③介護予防サポーター等の地域を支える人材育成
  - 4) 高齢になっても安心して暮らせる基盤整備
    - ①公共交通の整備
    - ②宅配サービス事業の実施

2. 大学や企業等との連携を強化・推進した地域の絆づくり
  - 1) 臼杵にある地域資源を活用した連携
    - ①「食」を中心とした地域産業振興の推進
    - ②「日本のふるさと」を体感する観光振興の推進
  - 2) 大学や企業の新たな風を取り込み、地域を活性化
    - ①地元銀行やメディア、地元企業等との連携による地域振興策の検討及び実施
    - ②大学との連携による地域振興策の検討及び実施
3. 地域と地域を連携し、臼杵に人が集まる取組み
  - 1) 数百年にわたって受け継いできた歴史や文化を通じた市町村間の連携
    - ①市町村間連携事業
  - 2) 九州・四国など広域で地域をつないで魅力を発信
    - ①愛媛県（四国）との連携事業
  - 3) 広域行政の実現
    - ①地方中核都市拠点都市構想
    - ②大分・宮崎県境5市政策協議会

**【新たな視点・強化ポイント】**

- (強化) 地域資源を活用した交流事業で元気な地域コミュニティづくり
- (強化) 企業等との連携による地域振興

**【新たに設けた業績評価指標】**

- ・ 共助の取り組み実施数
- ・ 元気高齢者の割合
- ・ 避難行動要支援者名簿個別計画作成割合

## ■ 2 PDCA サイクル

総合戦略は、市民、地域、団体、企業、行政など市全体で共有し、協働して推進する「公共計画」であるため、計画策定(Plan)、推進(Do)、点検・評価(Check)、改善(Action)の各過程においても、市全体が関わる体制を構築し、高い実効性を確保することが必要となる。

また、重点プロジェクト及び施策に設ける数値目標及びKPIについては、実施した事業の量を測定するものではなく、その結果によって得られた成果を測定する成果指標を原則とし、目標を明確化することで、市全体での目標の共有化と成果を重視した取組みの展開を実現する。

各分野において個人、団体などが役割と目標を自覚したうえで協働し、柔軟な発想と強い結びつきによって多面的に課題解決に取り組むことで、計画推進のマネジメントを強化し、着実に推進される計画とする。

具体的には、臼杵市の総合計画や行革プランの進捗状況を点検、評価を行っている「臼杵市行財政活性化推進委員会」において、毎年度、この総合戦略の数値目標及びKPIの推移等を明らかにして、各施策の進捗状況を把握し、この総合戦略で描いたビジョンの実現に向けた検証等を行っていくこととする。

また、市役所庁内での各施策の進捗状況管理については、「臼杵市協働まちづくり会議」において、状況を把握し、事業を推進していくためのチェック機能を持たせていくこととする。

# 第2期臼杵市まち・ひと・しごと創生総合戦略(「人口ビジョン」「総合戦略」)の全体像

◆人口ビジョン	◆総合戦略(2020(令和2)年度~2024(令和6)年度の5か年) ※KPI…Key Performance Indicator(重要業績評価指標)の略			
中長期展望 (2060年を 視野)	将来 のまち の姿	臼杵市の 理念	臼杵市総合戦略の 重点プロジェクト (政策成果目標及び数値目標)	主な施策及び業績評価指標(KPI※)
<p>人口減少 問題の克服</p> <p>◎2040年: 約31,600人 ◎2060年: 約27,500人</p>	<p>日本の心が息づくまち臼杵「おだやかさとたくましさ」と「たくましさ」を未来へつなぐ 100年後も持続可能なまちをめざして</p>	<p>●うすきの資源を活かした 産業の振興</p> <p>●移住・定住による 「うすき暮らし」のすすめ</p> <p>●安心して子どもを産み、 子育てできる環境づくり</p>	<p>(Ⅰ)地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする</p> <p>KPI: ◇雇用創出数: 2025年までの 5年間累計で350人</p> <p>(Ⅱ)地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる</p> <p>KPI: 社会動態の均衡 (市外への転出者と 市内への転入者の均衡) を目指す。</p> <p>(Ⅲ)若い世代の結婚・ 出産・子育ての希望を かなえる</p> <p>KPI: ◇この地域で子育てしたいと思う 親の割合:96%→97%</p> <p>◇合計特殊出生率:1.8 ◇30~34歳未婚率: 男性44% 女性34% ◇40歳前半 既婚女性 子ども 2.24人</p> <p>(Ⅳ)ひとが集う、安心 して暮らすことができる 魅力的な地域をつくる</p> <p>KPI: ◇臼杵市の満足度:2.0点</p> <p>◇健康寿命: 男性80.45歳 女性84.03歳</p>	<p>1. 臼杵の資源を活かしたほんまもん農業・漁業・林業・商業の振興、雇用の拡大</p> <p>1)「有機の里うすき」の実現プロジェクト 2)自然エネルギー資源を活用した循環型の臼杵づくり 3)豊後水道の恵み、ほんまもん漁業の振興 4)400年以上の歴史を育んできた商業の町の再興 5)地場に力を注いできた100年企業と新規企業(産業)の相乗効果による経済活力</p> <p>2. ふるさと「うすき」を全国に、そして世界に知ってもらうための戦略</p> <p>1)「うすき」にあるものを発信し、臼杵と人をつなぐ</p> <p>3. 臼杵ブランドの確立(6次産業化の推進)</p> <p>1)特産品の開発・販路拡大</p> <p>1. ふるさと臼杵Uターンによる「うすき暮らし」の推進</p> <p>1)移住・定住支援事業 2)ふるさと臼杵Uターン推進及び関係人口創出(臼杵に移住したくなるプロジェクト) 3)高等学校・大学等における人材育成</p> <p>2. 観光戦略推進による交流人口アップ</p> <p>1)歴史・文化・自然環境など地域資源の魅力発信 2)おもてなしの環境づくり</p> <p>1. 安心して産み育てる「臼杵で子育て中」の充実</p> <p>1)子育て満足度アッププラン 2)働くママ・パパ応援プラン 3)「臼杵産」安心安全でおいしい食材で育つ「健やか臼杵っこ」</p> <p>2. 夢と希望を叶える婚活の推進</p> <p>1)婚活プロジェクト</p> <p>3. 学校・家庭・地域で心のかよいう交流を通して「生きる力」を身につける学びの推進</p> <p>1)誠実にたくましく「生きる力」を身につけるための教育の実施 2)ふるさと臼杵に誇りと愛着・希望を持った「臼杵大好き臼杵っこ」をまち全体で育てる教育の実践</p> <p>1. みんながつながり支えあう地域の絆づくり</p> <p>1)地域内の交流・地域間の交流の促進 2)医療ITインフラを活用した医療保健介護サービスの充実 3)「食」と「健康」を通じた生活習慣の改善 4)高齢になっても安心して暮らせる基盤整備</p> <p>2. 大学や企業等との連携を強化・推進した地域の絆づくり</p> <p>1)臼杵にある地域資源を活用した連携 2)大学や企業の新たな風を取り込み、地域を活性化</p> <p>3. 地域と地域を連携し、臼杵に人が集まる取組み</p> <p>1)数百年にわたって受け継いできた歴史や文化を通じた市町村間の連携 2)九州・四国など広域で地域をつないで魅力を発信 3)広域行政の実現</p>



## 第2期総合戦略とSDGsの関係

### ■ 1 SDGs とは

SDGs とは、Sustainable Development Goals の略であり、持続可能な開発目標のことです。2001（平成13）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015（平成27）年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2030（令和12）年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。そこでは、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上で「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであるといわれています。

### ■ 2 SDGs が定める 17 のゴール



以下は17のゴールの説明です。（外務省の仮訳をもとに一部加工）

17のゴール	ゴールの説明
目標1(貧困)	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標2(飢餓)	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標3(保健)	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標4(教育)	すべての人へ包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

目標 5(ジェンダー)	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
目標 6(水・衛生)	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7(エネルギー)	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8(経済成長と雇用)	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
目標 9(インフラ、産業化、イノベーション)	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10(不平等)	各国内及び各国間の不平等を是正する
目標 11(持続可能な都市)	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
目標 12(持続可能な生産と消費)	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13(気候変動)	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14(海洋資源)	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15(陸上資源)	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16(平和)	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17(実施手段)	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

### ■ 3 第 2 期総合戦略と SDGs との関連

臼杵市で策定した第 2 期総合戦略の「重点施策」と SDGs における 17 のゴールを紐づけしたものが次ページの通りです。臼杵市の総合戦略の重点施策 4 つの柱に 17 のゴールを関連づけていますが、今後さらに精緻化していきます。

臼杵市においては、今後、SDGs のゴールやターゲットを意識しながら施策を推進します。



## 総合戦略とSDGs 17のゴールとの関連

総合戦略	SDGs
<p>(I) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする</p>	
<p>(II) 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる</p>	
<p>(III) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p>	
<p>(IV) ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p>	